

予算審査特別委員会

議員全員で構成する予算審査特別委員会（委員長 田辺公教）では、平成十九年度一般会計当初予算ほか特別会計を三日間にわたって審査しました。その結果次の意見を付して原案どおり認定すべきものと決しました。

- （主な意見抜粋）
- 町単独補助事業の補助率変更を住民に周知されたい。
- ゴミ集積所整備を強力に推進されたい。
- 住民検診の受診率向上を図られたい。
- 溝口小学校図工室の改善を図られたい。

予算に対する 討 論

合併後三年目の十九年度一般会計予算は自治体いじめ、国の言いなり、弱いものいじめ、職員いじめ、農村破壊の予算案である。バス事業、こしき保育所建設、中学二年生まで三十三人学級の町単独の積極的な事業があ

反対討論

福田千富美

るけれど、地方行革、伯耆町の行政改革2005、職員定数削減をはじめとする様々な施策は住民サービスや補助金のカットなど町民に痛みを押しつけている。納税報奨金がカットされている、また、自治交付金が整理されていない。福祉、保健、医療の切り捨て、上下水道料金引き上げなどが提案されている。弱い人の暮らしを守り、安全安心な農業を守る町独自の保護施策がない予算である。同和事業はすでに終了後五年になるが営々と続けている。固定資産税の減免など優遇施策が聖域として守られていることは問題である。

このような様々な問題がある予算には反対である。

賛成討論

中田 壽國

総額百八億四千七百万円、一般会計六十四億二千七百万円となっているが、各会計とも町民の命と暮らしを守るためにきめ細かく決められているものである。

内容については、予算特別委員会を設置し慎重に審査したものであり、質疑書を提出し回答を得ているものである。

十九年度は起債償還のピークを迎え大変苦心された予算であると考え、一般会計から国保会計や老人保険会計など他会計に八億三千二百万円が繰り出されており、十八年度に比べ一億六千六百万円増となっている。命と健康のために支出全体の十二・九五%を占めている会計である。

以上特別委員長報告のとおり賛成する。

賛成討論

大森 英一

十九年度予算は計画から実施へ向かう予算で結果を出して頂きたいと考える。反対者は人権施策には否定的な発言を繰り返している。これまでの発言の中には恣意的な内容が散見される。

いま協働のまちづくりのため一体化しようとするときマンパワーの質をいかに高められるかが求められており人権感覚が不可欠である。同和事業が聖域というが文化センターが担っているのは同和問題よりあらゆる人権問題の取り組みが増えている。反対者が人権の何に貢献しているでしょうか。一般施策でせよと言、自分の目的に対しては特別扱いを求める発言は整合性のかけるもなく独善的であると指摘しておく。

可決された主な議案

協働のまちづくりを目標として

○伯耆町型バス事業に関する条例

町内全域のバス運行をするための条例設置をしました。合わせて乗車料金等も決定しました。

○企業立地促進条例

企業の進出を促進するため、町有工業団地購入の助成制度や新規雇用に対する奨励金制度を条例で定めました。

○おにっ子ランド条例の改正

おにっ子ランドを無料開放し運営方法を変更するための条例改正をしました。

○町職員定数条例の改正

現在百七十三人の職員定数を部局に関係なく全体で百六十六人に減ずるもので、今後の職員定数管理計画では百四十五人まで減ずる計画です。

○町特別職の給与の特例に関する条例

厳しい財政状況の中、平成十九年度町長は月額四万円、副町長は三万二千元、教育長は三万円を減ずることになりました。

○町職員の給与の特例に関する条例

一般職員の給与を五級以上の職員は五%、三級以下四級の職員は四%、一級以下二級の職員は三%減ずることになりました。

○議員報酬の特例に関する条例

議員提案により、議員の報酬を議長は一万三千元、議員は七千円減ずることになりました。

○町職員の給与に関する条例の改正

六級の職に会計管理者、参事監を追加するよう改正しました。

○平成十八年度一般会計補正予算（第五号）

工事、災害復旧等の確定に伴う総額三千万円の減額補正であるが、当初予算で取り崩した基金へ五千五百万円積み立てるなど、補正後の額は六十八億千五百万円となりました。